

芸術監督・斎藤 純のショートエッセイ 石神の丘から 117

毛越寺に招かれ、5月26日に浄土庭園で開催された「^{ごくすい}曲水の宴」に参宴してきました。

「^{やりみず}曲水の宴」は遣水に盃を浮かべ、流れに合わせて和歌を詠む、平安時代の遊びを再現したもので、毛越寺では古文書に則って「ごくすいのえん」と呼んでいます。

参宴者は平安時代の貴族の衣装を身に着けますので、盛岡文士劇の延長みたいなものだろうという気持ちで引き受けたものの、時間が経つにつれて「大変なものを引き受けてしまった」と、つくづく後悔しました。なにしろ、私は和歌の素養がほとんどありません。付け焼き刃ながら枕詞を勉強しないといけないと調べはじめると、現在の短歌では枕詞を使わないのだそうです。言葉遣いについても毛越寺に問い合わせると、万葉風の古語である必要はなく、現代語でいいと言われて、だんだん気持ちが軽くなっていきました。

といっても、詠んだこともない和歌を（全国にお披露目されても恥ずかしくないレベルのものを）作らなければならないのですから、荷が軽くなったわけではありません。しかも、本番では短冊に毛筆で自作を認めるという難関も待ち受けています。さらに、後になって私は「主客歌人」とであると知り、愕然としました。「そんな話は聞いていない」と怖じ気づいたところで後の祭りです。

まず、和歌をいくつか作り、これを岩手県歌人クラブのY先生に送り、選んでもらいました。「曲水の宴」は毎年、歌題が定められます。令和最初の「曲水の宴」の歌題は「晴れ」でした。

これがいいでしょう、とY先生が選んでくださったのが下記の歌です。私は添削をしてもらおうつもりでいたのですが、字句の訂正などはありませんでした。

新しき 令和寿ぐ 詠み人の
笑み晴れやかに 曲水の宴

この歌を作る上で留意したのは、当日の天候が晴れるとは限らないという点です。また、「^{こうじ ひこう}曲水の宴」は、講師が披露講義といって歌を読みあげるのが大きな特徴です。ですから、耳で聴いて理解できる歌を心がけました（この点は参宴された岩手県歌人クラブの面々も苦勞なさったそうです）。ちなみに、講師は宮中歌会始でも披露講義をつとめていらっしゃる久邇朝俊（旧皇族久邇宮家）さんと近衛忠大（旧華族近衛家）さんです。

当日はお天気にも恵まれ（暑いくらいでした）、県外はもちろん海外からの観光客もたくさんいらして、盛会のうちに終えることができました。私もなんとか主客歌人の大役を果たすことができ、安堵のあまり、フワフワと舞う蜻蛉のような態で日々を過ごしています。

石神の丘美術館通信《いしび》

ishibi

2019.6 Vol.195

令和元年6月発行
発行・岩手町立石神の丘美術館
岩手県岩手郡岩手町五日市
10-121-21 〒028-4307
TEL 0195-62-1453
FAX 0195-62-1477
<http://museum.ishigami-iwate.jp/>

屋外展示場はリニューアル工事の為
2020年初夏までお休みしています

盛岡市生まれ
島を愛する紀行作家
斎藤潤の

離島・孤島・絶島・列島巡り紀行

【同時開催】 斎藤純の北上川サイクリング紀行

2019年
6月15日土～7月28日日



日本の島の
スペシャリスト
齋藤潤

1954年岩手県盛岡市生まれ。
東京大学文学部露文科卒業。
月刊誌『旅』、旅行情報誌の編集に携
わった後、独立してフリーランスライタ
ーに。日本の有人島は南鳥島以外すべ
て、無人島は66島踏破した。

岩手県盛岡市生まれの齋藤潤は、幼少期の4年間を盛岡で暮らし、その後は千葉や東京、埼玉などの首都圏を拠点に、旅に明け暮れてきました。新聞記者だった父親が、盛岡支局時代に制作したアルバムを見ながら岩手や盛岡高等農林学校の偉大なる先輩・宮沢賢治の話が聞かされた齋藤にとって、盛岡、そしてイーハトーブは人一倍愛着のある土地だといいます。年間120日から150日を旅の空で過ごす齋藤が好んで歩き続けているのは、日本の島々です。離島の多くは人口が減り、島の文化や風習の継承が難しくなっている場合もめずらしくないといいます。それでも島は、都会と逆の価値を気付かせてくれる、と齋藤はいいます。この展覧会では、個性豊かな日本の島々を紀行文と写真で紹介し、また、齋藤潤が岩手町を旅した紀行文、あわせて当館芸術監督・齋藤純が北上川の源泉から河口までをたどる紀行文を書き下ろし発表します。全国各地の豊かな島々を知るとともに、当地をめぐる二人の〈さいとう じゅん〉の紀行文により、私たちが町を再発見する機会ともなれば幸いです。

開館時間：9:00～17:00(入館は16:30まで)
休館日：毎週月曜日(月曜日が祝日の場合翌日)
観覧料金：一般300円／大・高生200円／中学生以下無料

【関連イベント】

- 対談 齋藤潤(紀行文作家) × 齋藤純(当館芸術監督・作家)
6月15日(土) 13:30～15:00 / 美術館ホール / 聴講無料
対談終了後、ギャラリートークも行います 観覧券をお求めの上ご参加ください
- 道の駅「石神の丘」開業17周年記念感謝祭
7月27日(土)・28日(日)の2日間、美術館は観覧無料です

日本の島の
スペシャリスト

齋藤純

石神の丘美術館
芸術監督



1957年岩手県盛岡市生まれ。
立正大学文学部卒業。
1988年『テニス、そして殺人者のタン
ゴ』で作家デビュー。
2009年、岩手町立石神の丘美術館芸
術監督就任。

齋藤潤の離島・孤島・絶島・列島巡り紀行 / 齋藤純の北上川サイクリング紀行

ドライフラワー教室

ソーラローズ、ハス、シラカバの枝などをつかった
華やかな壁飾り《ガーランド》をつくってみませんか？



日時：7月7日(日) 10:00～12:00 / 場所：石神の丘美術館工房棟
参加費：1,800円(材料代) / 定員：10名(予約制/先着順)
指 導：花ちゃ花ちゃ工房(町内ドライフラワーサークル)
お申し込み・お問い合わせ：石神の丘美術館 ☎0195-62-1458

美術館隣接 道の駅 石神の丘 / レストラン石神の丘情報

道の駅 石神の丘 TEL0195-61-1600 / レストラン石神の丘 TEL0195-61-1602

ルルとりり

再入荷しました



岩手町産ブルーベリー100%使用のワイン
「ルルとりり」。今年2月に新発売し、お
かげさまで人気のため一時完売してお
りましたが、ついに販売再開となりました！
お求めは道の駅「石神の丘」で。



冷やし石神ラーメン
¥650



冷やし春みどり
塩ラーメン
¥790

冷やしラーメン
はじまりました。